



セルロイド製品展示室

のご案内



場所 〒537-0014
大阪府大阪市東成区大今里西2-5-12
大阪セルロイド会館内 102号室

電話 06-6971-8031

Fax 06-6974-8038

Email celluloidokaikan@song.ocn.ne.jp

URL <http://ebisu.sofujteng.co.jp/cellukaikan/>

(1) セルロイドの歴史



1869年北米アルバニー市においてハイアット兄弟により発明された硝化綿系プラスチックは、セルロイドと命名され象牙の代替えとして、ビリヤードの玉に使用されました。

日本に上陸したのは8年後の1877年ドイツから神戸へ2寸角のセルロイドが輸入され、大阪久宝寺の西川伊兵衛が買い取り珊瑚玉に加工して売ったのがはじまりと言われています。

その後三井物産が多量に輸入して、櫛、カンザシ等の頭飾品がベッ甲の代替え品として作られるようになり、1908年には日本で二つの生地製造会社が誕生しました。

セルロイドを製造するには、硝化綿と樟腦が必要ですが、硝化綿は、硝酸と綿花を使います、硝酸は国産化されており、綿花は紡績産業が盛んでインド、中国から輸入されていたので容易に手に入れる事が出来ました。また樟腦は中国、台湾、日本の南部に生育していた楠木から採取できました。

セルロイド生地が生産されるようになると、加工技術の向上と相まって急速に種々の用途に使用されるようになり1937年には最高の生産、販売量になりました。

1950年代に入り石油から作られる新しいプラスチックの登場により、セルロイドの生産量が減少し、1996年日本での生地の生産がなくなりましたが、燃えやすいと言う最大の欠点を除けば、優れた性質を持ち加工性の良さから現在でもピンポン玉、ギターピック、眼鏡部品等に使用されており、根強い需要が残っています。

大阪セルロイド会館はセルロイドの加工業の中心であった現在の大坂市東成区に建設されており、現代産業の発展に大きく寄与したセルロイドを無料でいつでも不特定多数の方に見学して頂き、新しいプラスチックの開発のお役に立ちたいと考え、一室を”セルロイド製品展示室”としています。

20世紀は材料という側面からみるとプラスチックが金属に取って代わった世紀とも言われますが、21世紀は循環型社会と言われ、セルロイドのように再生産ができ、地球にやさしいプラスチックの開発が望まれており、そのヒントになる事を願っています。

(2) セルロイド製品展示室 展示製品概要

- | | |
|--------------------|-------------------|
| 1 造花の入れ物 | 16 扇子部品 |
| 2 眼鏡枠 | 17 湯桶 |
| 3 眼鏡ケース | 18 石鹼箱 |
| 4 筆箱 | 19 エレキギター部品 |
| 5 万年筆、ボールペン、シャープペン | 20 包丁柄 |
| 6 ペン先(ツケペン) | 21 靴べら |
| 7 自在定規 | 22 人形(キューピーさん他) |
| 8 動物模型 | 23 メクボール(紙めくり) |
| 9 櫛 | 24 ドラム化粧貼り |
| 10 髪飾り | 25 ギターピック |
| 11 化粧筆 | 26 待ち針頭 |
| 12 鏡 | 27 算盤部品 |
| 13 番号札 | 28 縁起物(鯛、招き猫) |
| 14 腕環 | 29 歯ブラシ柄 |
| 15 宝石箱 | 30 ゴルフクラブ部品(ソケット) |

(3) セルロイド生地製造工程図

